

## 相馬ボランティアセンター運営参加のみなさん お疲れさまでした!

連合は、相馬市社協、連合福島の要請を受け、実働部隊としての救援ボランティアチームとは別に、3月26日から約3カ月間、相馬市災害ボランティアセンターへ運営スタッフを常時3~5名派遣し、6月27日をもって派遣を終了しました。同センターへの派遣を終了するにあたり、最後の連合チームとして活動してきたスタッフからのメッセージが届きましたのでご紹介いたします。震災発生後早い段階から現地での活動支援に参加し、連日多くの一般ボランティアに対応してきたスタッフのみなさん、大変お疲れさまでした!

### <相馬ボランティアセンタースタッフを終えて>

大災害地域で自分がどのように役に立てるのかと考え、これから向かう『相馬』では何が待っているのかという不安の中、興奮しあまり眠れないまま現地入りしました。

主な仕事は、相馬にボランティアで来て下さった方を無事に送り出し、現地で極力不便のないようにするためのお手伝いをする事でした。初めはミスも多く、他のスタッフさんに迷惑を掛けてばかりでした。「送り出し先の仕事を見た方が良いよ」と言われ、写真洗浄の仕事を見学しました。回収・洗浄された思い出の品を見て心が痛くなりました。また、泥かきの仕事も見学し、『壮絶』を感じました。人の手で何とかなるレベルとはとても思えず、泥波の脅威を改めて感じました。センターでは休日ともなると、普段の2倍強のボランティアさんが押し寄せ、目のまわる忙しさでした。ゴールデンウィークはさらに倍の270人を捌いたとの話を聞きました。

今回で相馬市災害ボランティアセンターの連合スタッフは撤退となりますが、実働部隊はこれからも過酷な作業が続くと思います。健康第一で怪我の無い様にして欲しいと願うばかりです。

最後に、相馬ボランティアセンタースタッフの皆さん、良くして頂きありがとうございました。また、送り出してくれた家族、職場に感謝します。

【相馬ボランティアセンター・連合支援スタッフ 金井和久さん(電力総連)】

### ■相馬災害ボランティアセンター ブログ

現地の活動がわかります。連合スタッフについても載っています。

<http://d.hatena.ne.jp/somasaigai/>



相馬市の花(夏) ハマナス



## 第13陣 327人が出発

7月3日、連合救援ボランティアの第13陣327名が出発しました。今回から、現地での実働日数が7日から5日となり、「日曜出発→土曜帰着」のパターンとなります。7月4日現在の派遣者総数は岩手、宮城、福島  
の3県合計で3,918人、延べ人数は24,276人（人数×活動日数）となっています。

ありがとうございました！

## 福島・会津拠点を終了 延べ2,500人の活動支える

4月8日の設置以来3カ月にわたり設置してきた福島・猪苗代町の会津拠点が、7月2日の第12陣活動終了をもって終了となりました。会津拠点からは、延べ2,506人（実数361人）が、郡山、会津若松、いわきなど福島県内の各地域に向かい、活動してきました。最終日となった2日は、郡山、会津若松で、共に活動した現地ボランティアの皆さんと涙のお別れ。解団式には郡山市災害ボランティアセンターの担当者の方も駆けつけて下さった中で、これまでの活動を締めくくりました。

この間、拠点の設置・運営にご協力いただいた沼尻勤労者保養センターの皆さんをはじめ、関係者の皆さんに感謝申し上げます。



■会津拠点のボランティア参加者が書き残してきた寄せ書き。被災地と共に復興に向けて  
歩む決意など、参加者の思いが綴られている。

## 活動レポート

### 岩手

#### ●宮古拠点

【6/30】磯鶏沖地区での側溝からの泥出し作業、銚ヶ崎小学校の風呂・トイレ清掃を実施。

**現地から** 現地での活動も3日目となり、作業の連携が格段に良くなり、炎天下での作業でしたが予定よりも早く完了できました。

【7/1～2】金浜地区で側溝からの泥・がれきの撤去作業、銚ヶ崎小学校の風呂・トイレ清掃を実施。

■通学する子どもが足を踏み外さないよう、津波で流された側溝のフタを集めて元に戻す(7/2)



## 宮 城

### ●美里拠点

【6/30】東松島市・JR 陸前小野駅周辺の住宅地で側溝からの泥出しを実施(写真右)。

**現地から** 作業場所の近くにある公園には仮設住宅が設置されていて、入居者の方々から何度も声を掛けて頂きました。活動終了後には、拠点前で、地元の方々から、この地域の名物である「スッポコ汁」を振る舞って頂きました。この炊き出しには、地元大崎地協や地域在住の労働組合OBの方々なども大勢参加し、震災当時の状況や、地協の取り組み、労働運動の経験談なども伺うことができ、とても貴重な時間となりました。

【7/1】東松島市内での側溝泥出し作業を実施。

**現地から** 作業になれる一方、疲労が蓄積し事故の発生しやすいタイミングであることから、作業開始前に安全呼称の掛け声とともに作業を開始しました。

【7/2】東松島市大曲地区で、公園のヘドロ除去・清掃を実施（連合山形からの隣県支援チーム38名と合流しての作業）。



■活動前に、メンバー間で作業上の注意点を確認(7/1)

## 福 島

### ●福島拠点

【6/30】相馬班、南相馬班の2班に分かれて活動。相馬藩は、お寺の駐車場でのがれき撤去、南相馬班は、側溝からの泥出し作業を実施。

【7/2】相馬、新地、南相馬の3班に分かれ、民家敷地内の泥出し作業を実施。

### ●会津拠点

【6/30～7/2】郡山市内の避難所3ヶ所で炊き出し（中華スープ、かぼちゃとたまねぎの味噌汁）、支援物資配布（水、トイレトペーパー）、仮設住宅でのグリーンカーテン貼り付け、聞き取り調査を実施。会津若松支援物資センターでは物資仕分け、配布作業を実施。

### ●いわき拠点

【6/30】いわきボランティアセンターでの資材班業務、いわき市永崎地区の工場敷地内のがれき撤去を実施。

【7/1】いわきボランティアセンターでの資材班業務、四倉地区で側溝からの海砂撤去作業を実施。

【7/2】いわきボランティアセンターでの資材班業務、豊間地区で側溝からの海砂撤去作業を実施。



■南相馬での側溝からの泥出し作業(6/30)

# 連合救援ボランティアレポート

第 42 号  
2011 年 7 月 6 日

| 1

## ボランティア拠点運営 地方連合会も参加 全国から活動支える

7月から、各地方連合会が、ボランティアメンバーに加えて、各拠点の運営に携わるスタッフにも参加しています。これまで被災地の地方連合会と連合本部が行ってきた各拠点の運営について、岩手は関東ブロック、宮城は北陸・四国・九州ブロック、福島は中国・近畿ブロックの各地方連合会からスタッフが派遣されています。各拠点へは常時 1~2 名のスタッフが派遣され、拠点での生活面の支援、器材管理、活動先への引率・ボランティアセンターとの調整にあたっています。連合ボランティア活動を全国から支える輪が増えるとともに、今後、災害救援ボランティア運営の経験が各地域での活動に役立てられることも期待されます。

### 活動レポート

#### 宮 城

##### ●美里拠点

【7/4】東松島市牛網地区で側溝からの泥出し作業を実施。

**現地から** 途中から強い雨が降りずび濡れとなる中、順調に作業を進め、午前中で作業を完了しました。作業に立ち会った地区の会長からは「先日地区の住民で泥出しを計画したが、高齢者が多く手に負えなかった。若い人たちの手際の良い作業に感謝する。ありがたい」との言葉を頂きました。

#### 福 島

##### ●福島拠点

【7/4】相馬班、新地班、南相馬班に分かれて活動。民家でのがれき撤去、側溝の泥出し、草刈り作業を実施。

##### ●いわき拠点

【7/4】いわきボランティアセンターでの資材班業務、いわき市四ツ倉地区の民家でのがれき分別、清掃センターへの運搬作業を実施。



### 写真で見る各地の活動



- (上) 気仙沼でのがれき撤去作業。まだ手つかずの場所が多い(4日)
- (左) 東松島市内での側溝作業。2日目でもあり泥上げも慣れてきた(5日)
- (右上) ガソリンスタンドの一角を借りて昼食。営業中だが設備の多くは未だ故障中とのこと(4日・東松島)
- (右下) 翌日の作業に備え、洗ったゴム手袋や長靴を天日干し(5日・美里拠点)



つながる、ささえる、680万

# 連合救援ボランティアレポート

第 43 号  
2011 年 7 月 7 日

| 1

## 小規模避難所に支援を 連合埼玉 避難所巡回・支援の取り組み

東日本大震災の発生から 4 カ月を迎えようとしています。いまだに多くの被災者の方が避難所生活を余儀なくされています。この間、避難所によって届いている支援に差があることが指摘されています。マスコミ報道で取り上げられた避難所には多くの支援の手が差し伸べられる一方、報道対象にならない多くの避難所では、必ずしも十分でないという声が聞かれます。

こうした中、連合埼玉は、県内の小規模避難所を巡回して避難者の方々とコミュニケーションを取りながら、ニーズを把握し、必要な支援につなげる取り組みを行っています。

連合埼玉は、5 月 23 日に県内の避難所をまわり、避難所の状況や必要な支援物資について聞き取り調査を実施しました。この時点での埼玉県内の避難者は約 2,400 人。福島県双葉町から約 1,000 人が避難している加須市の他、数十人規模の避難所が県内各地に点在しています。連合埼玉は、事前に各自治体に調査実施を打診し、是非やってほしいとの回答を得て 7 ヶ所で聞き取りを実施。このうち熊谷市、幸手市、杉戸町の 4 ヶ所の避難所から支援の依頼を受けました。

避難所ごとに置かれている状況は様々で、避難者が減りスペースに多少余裕がある避難所がある一方、一人のスペースが一畳程度で冷暖房がない施設もあったとのこと。ボランティアや支援物資の量も避難所の立地によって異なり、小規模の避難所では物資不足も発生していたそうです。

聞き取りの結果、不足している日用品を確認した連合埼玉では、さっそくその日夕方から確保に走り回りました。そして翌日、4 つの避難所を再び訪ね、避難者の皆さんに夏物衣料、お茶、コーヒー、シャンプー、歯磨き粉、蚊取り器などの物資を直接手渡しました。「皆さんから、要望した翌日には対応してくれたと感謝された。訪問の時期が遅れた感はあるものの、直に皆さんから必要な物資を聞くことができ、それに応えることができ、勉強させてもらったという気持ちが強い（連合埼玉）」

その後も、連合埼玉では引き続き訪問調査を実施し、6 月に入って三郷市、久喜市の避難所にも支援物資を寄贈しており、引き続き定期的に取り組むこととしています。

この取り組みに先だって、連合埼玉は、県内避難者への支援に充てるため、県中央メーデーで震災復興支援カンパと模擬店を実施、その取り組みで集まった約 105 万円が物資購入費用として活用されています。



# 活動レポート

## 宮 城

### ●美里拠点

【7/6】東松島市内で側溝の泥出し作業を実施。

**現地から** 現場は前々日の豪雨で側溝があふれ冠水しており、住民は雨のたびに不安を感じていました。午前中の作業で水の流れは良くなったものの水位は下がらず。その後、幹線側溝（深くて幅が広い）の中で土砂が溜まっていることを確認し、午後はその除去作業に集中。その結果、水位改善に成功しました。休憩時には住民の方から栄養ドリンクを差し入れて頂き、気合いを注入しました。



(写真左) 土砂除去前の幹線側溝。土砂がぎっしり詰まっている。

(写真右) 土砂除去後の幹線側溝。横の側溝からの管も顔を出し、水の流れが改善された。

## 福 島

### ●福島拠点

【7/6】相馬班、南相馬班、新地班の3班に分かれて活動。いずれも個人宅の側溝清掃、敷地内、畑のがれき撤去を実施。

### ●いわき拠点

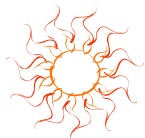
【7/5～6】いわきボランティアセンター資材班業務、四ッ倉地区、薄磯地区でのがれき分別、民家脇側溝の土砂除去を実施。

つながる、ささえる、680万

# 連合救援ボランティアレポート

第 44 号  
2011 年 7 月 11 日

| 1



## 被災地も夏本番へ 熱中症対策の徹底を!

確実な休憩・水分補給、安全確認でリスクを回避しよう

11日、東北地方が平年より約2週間早く梅雨明けしましたが、すでに各地では連日厳しい暑さが続いています。9日は東北地方で初の猛暑日を記録。10日も福島36度、石巻35.6度など、各地で厳しい暑さとなりました。湿度も70%超と高く、熱中症リスクが高まっています。連合のボランティア隊は現地から作業の速さで定評を得ていますが、作業を急ぐあまり、休憩不足にならないよう気をつける必要があります。無理な作業で熱中症になってしまえば、かえって現地の方々に迷惑をかけることとなります。これまで以上に、休憩間隔、水分補給などのリスク回避に留意しながらの活動が重要です。また、暑さは注意力低下の要因でもあります。互いの声掛け、安全確認で事故防止に努めましょう。

### 第14陣活動開始 延べ活動人員 25,000名超える

7月10日、連合救援ボランティア第14陣の332人が出発し、11日から活動を開始しています。今回の派遣で、派遣開始からの実派遣人数は4,290人となり、延べ人数(実人数×活動日数)は、11日現在25,776人となりました。

【内訳】

岩手：1,687人(のべ9,395人) 宮城：1,292人(のべ7,910人) 福島：1,311人(のべ8,471人)

## 活動レポート =第13陣=



### 宮 城

#### ●美里拠点

【7/7-8】東松島市牛網字で民家の家財搬出・洗浄、民家床下や側溝からの泥出し作業を実施(写真左下)。

#### ●千厩拠点

【7/8】気仙沼市幸町でアパートのがれき撤去、泥出し作業、東みなど町での店舗跡地の土砂・がれき撤去作業を実施。建物周辺には腐敗した魚があり強い臭いの中での作業となった(写真右下)。



## 福島

### ●福島拠点

- 【7/7】相馬班、南相馬班に分かれて活動。相馬班は、旅館周辺のがれき撤去、側溝からの泥出し作業を実施。また、地元ボランティアと共に仮設住宅に設置する「みどりのカーテン」づくり（ゴーヤの苗植え・写真右）。南相馬班は、個人宅のがれき撤去、家財搬出、公道側溝の泥出しなどを実施。
- 【7/8】相馬班、南相馬班、新地班に分かれて活動。相馬班は個人宅のがれき撤去、側溝からの泥出し作業を実施。南相馬班は公道の側溝からの泥出し作業（写真左）、新地班は畑からのがれき撤去作業を実施。



### ●いわき拠点

- 【7/7】いわきボランティアセンター資材班業務、薄磯地区で水産会社の水産加工工場で、ゴミの分別・運搬作業を実施。

**現地から** この冷蔵倉庫では大量の魚が腐り、虫の発生や放たれる悪臭に近隣から苦情が出ていました。マスク、ゴーグルなどフル装備で作業にあたりましたが、作業開始直後は、あまりに強烈な臭いに吐き気とのたたかいに。それでも各班チームワーク良く作業を進め、1日で作業を完了。「なんとか冷蔵倉庫を再開したい」と話していた経営者も感謝の言葉を繰り返し、経営者の家族、従業員の方々からも感謝して頂きました。

ただ、作業着や器材に付いた臭いが大変。車の中にも臭いが移る始末で、立ち寄った店で他のお客さんから「くさい」と言われてしまいました…



## 第 14 陣 活動レポート

暑さに負けず  
ガンバってます！

### 宮 城

#### ●美里拠点

【7/11】石巻市雄勝町波板地区で、瓦の撤去、砂浜の清掃を実施（下写真）。

【7/12】前日に引き続いて、石巻市雄勝町波板地区で瓦の撤去、砂浜の漂着物清掃、海岸道路整備を実施。

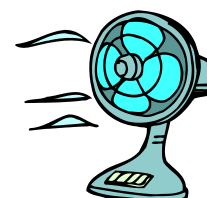
**現地から** 梅雨明けして炎天下のもとでの作業となりましたが、水分補給と休憩をこまめに取りながら作業を進めました。12日は午前中はやや風が吹いていましたが、午後は無風状態。休憩のたびに頭に水をかける人もいました。



#### ●千厩拠点

【7/12】気仙沼市中みなと町でがれき撤去（写真下左）、花壇の泥出し、津波に浸かった段ボール箱の撤去（写真下右）などを実施。

**現地から** 段ボールはサンマの加工食品用で、ハエの多さに驚かされました。作業中に写真数枚とアルバムを発見。洗浄して依頼主に渡し、大変喜ばれました。



## 福島

### ●福島拠点

【7/11～12】相馬班、南相馬班に分かれて活動。相馬班は、個人宅の泥出し作業。南相馬班は、側溝からの泥出し作業、新地班は個人宅での側溝からの泥出し、林での漂着物の撤去作業を実施。

**現地から** 震災から4カ月の節目となったこの日、震災発生時刻にボランティア全員で黙とうを行いました。相馬での作業は日陰のない所であったため、休憩を多く取りながらの作業でした。新地では、作業終了後、依頼主の方から全員に裏に手書きの御礼の言葉が書かれた写真を受け取り、全員感激でした。福島は浜通り地方でも30℃を超えています、体調を崩す人もなく活動できています。



■新地町での側溝清掃（11日）



■震災発生時刻に黙とうを捧げる（11日・新地町）



■依頼主のお宅で貴重品・写真類の選別を手伝う（12日・新地町）



■依頼主の方から頂いた、依頼主と一緒に撮影した写真入りのメッセージ

### ●いわき拠点

【7/11】いわきボランティアセンター資材班業務、豊間小学校で、住民の方と共に、体育館での遺失物整理を実施。



つなごる、ささえる、680万

# 連合救援ボランティアレポート

第 46 号  
2011 年 7 月 15 日

| 1

## 9月末までの派遣継続を確認

14 日に開催された連合中央執行委員会で、連合救援ボランティア 7~9 月の取り組みが確認され、「一定規模の人員を継続して派遣し、ボランティアセンターとの連携で活動する」という現在のスタイルでの取り組みについて、9 月末まで継続して実施することとなりました。10 月以降については、現地のニーズをふまえつつ別途検討することとしています。

### ■避難所の実情把握と支援についても検討

また、仮設住宅への移動が進む中で、避難所の間では支援の手が届きにくくなっているところがあるとの声があることから、各地方連合会の取り組みとして、自治体と連携しつつ、各地域に設置されている避難所の状況を確認し、必要に応じた支援を検討することについても確認されました。

### 8 月

岩手、宮城で活動を継続します。岩手については、新たに設置する大東拠点（一関市大東町）にボランティア隊（80 名規模）を集中し、陸前高田市周辺での活動に取り組みます。宮城は、気仙沼、石巻、東松島地域の活動に加え、仙台市内でのニーズに対応するため、仙台、美里、千厩（※）の各拠点を継続します（3 拠点合計 55 名規模）。※千厩拠点については第 17 陣から設置場所が移転する予定です。

派遣日程は下記の通りです。お盆の時期については、被災地の事情に配慮し、通常とは異なる日程となっています。

（第 17 陣）	7/31（日）	出発	→	8/6（土）	東京着
（第 18 陣）	8/7（日）	出発	→	8/12（金）	東京着
（第 19 陣）	8/15（月）	出発	→	8/20（土）	東京着
（第 20 陣）	8/21（日）	出発	→	8/27（土）	東京着

### 9 月

8 月と同様、岩手と宮城で同様の活動を行う予定です。



### 強い日差しに要注意！

熱中症だけでなく、日焼け（やけど）にも注意を！

梅雨明け後、強い日差しの中での作業が続いていますが、ボランティア参加者の中には、日焼けが進み、やけど状態になった人がいるとの報告が入っています。

炎天下の大変な環境での作業ですが、日焼け止めの使用（首筋、耳、鼻）、肌を長時間露出しない（ケガ防止の観点からも）、日焼けした箇所の冷却、水分補給など、日焼けの影響を避ける注意が必要です。

# 活動レポート

## 宮 城

### ●美里拠点

【7/13】石巻市雄勝町波板地区で瓦の撤去、砂浜の漂着物清掃、海岸道路の整備を実施（写真左）。

**現地から** 強い紫外線の下での作業で日焼けが進み、やけどに近い状況になった人がいます。班長会議で紫外線への注意を確認しました。

【7/14】石巻市北上町で、町内の側溝からの泥出し作業を実施（写真右）。



## 福 島

### ●福島拠点

【7/13】相馬班、南相馬班に分かれて活動。相馬班は、長尾地区で個人宅の泥出し作業。南相馬班は、萱浜地区で側溝からの泥出し作業を実施、新地班は、個人宅で家具の搬出、泥出し、家財整理を行う。



■写真左：暗渠状になっている側溝から泥をかき出す。写真中：すっかりきれいになった側溝。

写真右：作業にあたったボランティア隊、すっかり泥まみれ、でも表情には達成感が。

### ●いわき拠点

【7/12】いわきボランティアセンター資材班業務、市職員とともに市内避難所を巡回し、毛布回収・運搬作業を実施。

【7/13】いわきボランティアセンター資材班業務、末続地区、内郷地区で、田畑の漂流物撤去、住宅の片づけ作業を実施。

【7/14】いわきボランティアセンター資材班業務、末続地区、永崎地区で、田畑のがれき撤去、家屋での整理作業（畳あげなど）を実施。

**現地から** 12日には、ボランティアセンターで、復興に向けたシンボルとして、メッセージを書き込んだひまわりのプランターをセンターに寄贈しました。

つながる、ささえる、680万

# 連合救援ボランティアレポート

第 47 号  
2011 年 7 月 19 日

| 1

## 第 15 陣 328 名 現地活動を開始

17 日、連合災害救援ボランティアの第 15 陣 328 名が現地に向けて出発しました。これまでの派遣者総数は 4,618 人、延べ活動人数は 27,706 人となっています（19 日現在）。

先週までの暑さから、今週は台風 6 号による影響が気にかかるようですが、現地対策本部の指示に従い、安全に十分留意した活動をお願いします。



### ボランティア参加者からの報告が届きました



第 14 陣・千厩拠点で活動された、ゴム連合イノアック労働組合の伊藤明さんから報告が寄せられました。ご紹介するとともに、引き続き参加されたみなさんからのご感想などをお待ちしております（宛先は下記ボランティア派遣担当班まで）。

第 14 陣で救援活動に参加できたことに感謝します。今回、ゴム連合から 2 名の参加で、モルテン労組の佐藤秀和さんと同じ班で活動を共にしました。7 月 11 日に東北地方が梅雨明けし、5 日間の活動は猛烈な暑さとの闘いでもありました。

私たちは現地の要望に応える事で地元のみなさんに元気を与え、地元のみなさんからはゼロからの出発でも生きていこうとする勇気を見て、逆に精神面での元気をもらいました。

気仙沼ボランティアセンターには、個人参加の人達、自治体からの派遣団、社会福祉協議会、海外からの応援など、多くのボランティアが参加しています。地震・津波から 4 ヶ月経ちましたが、行政の機能が被災者の要望に追いついておらず、まだまだ手伝いを求める声が途切れることはありません。

連合の救援活動は現地でも高い評価を得ています。産別の垣根を越えての結束力は目的が明確であることで、さらに高まっていると思われます。

今回の活動では良い経験をさせてもらいました。人生の思い出として忘れることのない貴重な体験でした。鮮明な記憶は徐々に薄れていくでしょうが、なくなることはありません。薄れゆく記憶のように、東北被災地の痛みが小さくなり、過去の出来事だと思えるようになってもらいたいものです。

ゴム連合（イノアック労働組合）伊藤 明

# 活動レポート

## 宮 城

### ●美里拠点

【7/15】石巻市北上町で、小屋からの泥のかき出し、畑の表面を覆う泥などの撤去を実施。

**現地から** 気温 32℃を超える暑さの中での作業でしたが、チームワーク良く作業を進め、依頼主からの感謝の言葉で疲れも吹き飛びました。

【7/18】石巻市八幡地区で民家での家財搬出、屋内洗浄、津波に浸かった壁の撤去作業を実施。

**現地から** 現地に到着して 30 分ほど作業を行っていたところ、ボランティアセンターから、「実は依頼があったのは別のお宅でした！」との連絡が。実際には、名前が同じお向かいのお宅が依頼先とのことでした。さっそく移動して、作業に汗を流しました。作業にあたっては、強い足元にガラス、食器の破片があるため、踏み抜き対策（安全靴、中敷き）は必須です。



■写真左：民家から津波に浸かった畳や家財を運び出す。  
写真右：作業終了後、依頼主の方と共に。  
(いずれも 18 日)

### ●千厩拠点

【7/15】気仙沼市本郷地区で公園の清掃（泥の除去、草むしり）を実施。

【7/18】気仙沼市大浦地区で、水田からの泥、がれき撤去作業を実施。



■写真左：公園に堆積した泥を除去する（15 日） 写真中：水田の土砂撤去の様子（18 日） 写真右：津田弥太郎参議院議員、田中美絵子衆議院議員も作業に参加、休憩中には依頼主から話を聞く（18 日）

## 福 島

### ●福島拠点

【7/15】会津班は相馬市長尾地区で民家の床下からの泥出し作業、南相馬班は、回収物の洗浄作業、民家で側溝の泥出し作業などを実施。新地班は、民家敷地内の清掃、側溝の泥出し作業を実施。

【7/18】会津班は支援物資センターで物資の仕分け、運搬、郡山班は、被災地で回収された写真の仕分け、相馬班、南相馬班、新地班は、側溝の泥出し、田んぼのがれき処理、民家での家財運搬を実施。

### ●いわき拠点

【7/15】ボランティアセンター資材班業務、豊間地区での民家からの土砂出し、がれき運搬作業を実施。

【7/18】ボランティアセンター資材班は、約 300 名のボランティアへの器材受け渡し、第 14 陣から引き継いだメッセージ入りひまわりの植え替え作業などを実施。永崎地区ではコンビニエンスストアの側溝の民家からの土砂出し、がれき運搬作業を実施。



■それぞれの生活の記憶が刻まれた写真の数々。（18 日・会津若松）

## 拠点移転を前に 地元の皆さんへ恩返し 住田拠点で「感謝の集い」を開催

気仙郡住田町にある連合救援ボランティア住田拠点（連合岩手ボランティアセンター住田）は、7月23日をもって閉鎖し、新たに設置される大東拠点に集約される予定ですが、それを前にした16日、5月10日の開設以来お世話になった地域の方々をお招きして、連合岩手による感謝の集いが開催されました。

この日は、午前中に連合のボランティア隊が、今までの感謝の気持ちをこめて、センターとして使ってきた「五葉地区公民館」の大掃除とグランド整備を行いました。

その後開催された感謝の集いでは、主催者を代表して、<sup>いさご</sup>砂金連合岩手会長が「地域の方々には大変お世話になりました。完全復興にはまだまだかかりますが、今後ともよろしく願いいたします。」と挨拶しました。続いて、川村勝人・五葉地区公民館館長よりご挨拶をいただき、林崎幸正・住田町議会議員の音頭で乾杯を行いました。

集いには、住田町、大船渡市社会福祉協議会、連合岩手気仙地区協議会、住田町職員労働組合、食事のお世話をしていただいた食堂、毎日の入浴でお世話になった温泉施設、ボランティアの送迎をしていただいたバス会社の方々など、約100名の方々が集まりました。

この日のメインイベントは、お世話になった五葉地区に伝わる「五葉山火縄銃鉄砲隊」の演武披露がありました。この鉄砲隊の演武は、震災後初めてとのことで、甲冑姿の鉄砲隊の雄姿と大きな砲声に惜しみない拍手が送られました。参加した皆さんは食事を取りながら、復興に向けた思いを語り合い、集いは大いに盛り上がりました。

連合岩手では、7月末で終了となる東和、岩手の各拠点でも感謝の集いの開催を予定しています。



■感謝の集いの様子



■地域の皆さん、火縄銃鉄砲隊とともに記念撮影



■復興への願いをこめて、砲声が空にとどろく

★当日の様子は岩手日報にも掲載されました。記事はWeb版でもご覧になれます。

<http://www.iwate-np.co.jp/hisaichi/h201107/h1107171.html>

## ご協力ありがとうございます！ エコキャップ回収

活動中に飲む水などのペットボトル。暑さの中消費量も増えていますが、ボランティア隊はそのキャップも無駄にしません。連合は、CO<sub>2</sub>削減と世界の子供達にポリオワクチンを届けるための「エコキャップ回収」の取り組みに参画しています。こうした中、第14陣・宮古拠点の参加者のみなさんから、拠点で集められたキャップが届けられました。お預かりしたキャップは、NPO法人エコキャップ推進協会に送られます。



## 活動レポート

### 宮 城

#### ●美里拠点

【7/19】前日に続き、石巻市八幡地区で民家での家財搬出、屋内洗浄、津波に浸かった壁の撤去作業を実施。

【7/20】石巻市中屋敷地区で、アパートから撤去された石膏ボードの運び出し作業を実施。



■写真左：砕いた石膏ボードを運び出す。  
写真右：作業中に見つかった新聞には3月11日の日付が。

#### ●千厩拠点

【7/19】気仙沼市の五右衛門ヶ原仮設住宅232戸への物資搬入作業（布団、テーブル、食器など）を実施。

【7/20】気仙沼市唐桑町で、側溝清掃などの作業を実施。



■写真左：床下からの泥出し。（19日石巻） 写真中：仮設住宅に布団を搬入するボランティア隊（19日気仙沼）  
写真右：台風の影響が心配されたが、風雨は弱く作業を実施（20日気仙沼）

### 福 島

#### ●福島拠点

【7/19】会津班は避難所での物資配給作業、郡山班は仮設住宅での支援物資配布や引越しの手伝いを実施。相馬班は被災地で回収された写真の仕分け・洗浄・整理作業、新地班は民家での

【7/20】会津班は支援物資の搬入・仕分け作業、郡山班は仮設住宅での支援物資配布、短冊の設置などを実施。相馬班、新地班は田んぼの側溝、がれき撤去等を行ったが風雨のため作業中止となった。



■物資支援センター。種類ごとに整頓が進んでいる（19日）

#### ●いわき拠点

【7/19・20】雨天のため屋外作業中止。拠点の清掃、器材の整理を行う。

連合本部・災害対策救援本部 ボランティア派遣担当班  
電話 03-5295-0555 FAX03-5295-0547（非正規労働センター）  
hiseiki@sv.rengo-net.or.jp



# 連合救援ボランティアレポート

第 49 号  
2011 年 7 月 26 日

| 1

## ボランティア隊 第 16 陣にバトン渡る

24 日、連合災害救援ボランティア第 16 陣の 281 名が出発しました。第 1 陣からの合計人数は、実数約 4,899 名、延べ人数で約 28,938 名となりました。さっそく 25 日から各地で活動に入っています。

### ■福島の各拠点 いよいよ最終走者へ

既報の通り、福島県の各拠点（福島、いわき）は今回で 4 カ月にわたる活動を終えることとなります。最終日まで安全に活動して頂きたいと思います。なお、岩手（大東拠点）、宮城（仙台、美里、千厩）の各拠点は、8 月以降も活動を継続していきます。



■福島チーム最後の出発式。  
最終日まで団結してガンバろう！

### 【連合救援ボランティア 活動人数（7/25 現在）】

●延べ人数 28,938 名（人数×日数 実派遣者数 4,899 名）

（内訳）岩手：延べ 10,872 名（実人数 1,951 名）

宮城：延べ 8,924 名（ " 1,510 名）

福島：延べ 9,142 名（ " 1,438 名）

## 活動レポート

### 宮 城

#### ●美里拠点

【7/21-22】石巻市水明北区で側溝からの泥出し作業を実施。

**現地から** 側溝が一杯になっているため浄化槽に水が逆流し、住民の方は困っていました。腰を曲げながら慣れない作業で苦労しましたが、一日で割当部分の作業を完了できました。作業中、住民の方からお茶やスポーツドリンクなどを差し入れて頂きました。

【7/25】石巻市中屋敷でアパートの壁・天井の剥離作業、がれきの撤去作業を実施。

**現地から** 壁や天井の剥離作業は、屋内作業ですが、暑さと汗でゴーグルが曇る中での作業。バールを使って建材を剥がしますが、壁の向こうで作業している人に注意が必要です。お互いに声を掛け合いながら作業しています。現地では連合の組織的な活動に対して評価を頂いているとのこと。昼食ですが、ハエが多く落ち着いて食事できないのが難点です。

#### ●千厩拠点

【7/21-22】気仙沼市大浦地区で水田の污泥やがれきの撤去作業を実施。

【7/25】気仙沼市波路上（長磯）二本松で田んぼのガレキ撤去、側溝の泥あげ、ため池のガレキ撤去などを実施。



■バールを使って壁の建材を撤去  
（25日・石巻）



■水田に堆積した土砂を撤去する。  
（22日・気仙沼）

## 福島

### ●福島拠点

【7/22】会津班は支援物資センターでの搬入作業、郡山班は仮設住宅へ水の配布、相馬班は保育園の側溝からの泥出し、新地班は民家の家財・がれき撤去作業を実施。

【7/25】相馬班は回収した写真の洗浄作業、南相馬班は民家の床下からの泥出し、家財道具の運搬、仮設住宅の壁設置作業を実施。新地班は防火水槽の泥出し、個人宅跡のがれき撤去作業を実施。

**現地から** 写真の洗浄は屋内ではあるものの神経を使う作業です。適宜休憩を入れながら作業を進めました。この間大きな地震はありましたが被害はありません。作業前の安全確認を徹底することとしています。

### ●いわき拠点

【7/21-22】小名浜地区と江名地区で、民家の泥出し、家財搬出、清掃作業を実施。

【7/25】ボランティアセンター資材班業務、江名地区の民家、水産会社でのゴミ分別・清掃センターへの運搬作業を実施。

## 感謝の集い 宮古・東和でも実施

7月末で終了となる宮古・東和（ともに岩手）の各拠点で、23日、地域の方々への感謝活動と交流会が開催されました

このうち宮古拠点（新里高齢者コミュニティセンター）では、午前中に、地域の方々と一緒に拠点周辺の清掃や JR 釜谷駅の花壇に花を植えるなどの作業を行いました。その後、地域の方々を交えた交流会が行われ、地元自治会、消防団、社会福祉協議会、地元議員など約 100 名を超える人々が参加しました。

この日は、地元の子どもたちが、地域で約 400 年の歴史を持つ「ひきめししおどり釜谷鹿子踊」(市指定文化財)を披露。揃いの装束を身にまとい、鹿を模した頭、白い紙を切って束ねた飾りをつけて、元気よく踊る姿に会場から拍手が沸きました。

